

まきらり

磐田人
いわたじん

まちかどのフィランソロピスト賞受賞

おさむ
三島 治さん

●プロフィール●

昭和27年創業の寝具販売店(株)菊屋の代表取締役。日本睡眠改善協議会公認の睡眠改善インストラクターの資格を持つ。平成17年に「蚊帳の博物館」をオープンし、館長も務める。中泉在住。52歳。

■蚊帳の博物館■

昔懐かしの蚊帳から現代の蚊帳までを展示し、蚊帳の文化や歴史を紹介しています。

ところ：中泉235

時間：午前10時～午後7時

入館料：無料

休館日：水曜日

その他：毎月第3土曜日に「安眠講座」を開催

問い合わせ：蚊帳の博物館 ☎32-5552

<http://www.anmin.com>

蚊帳で命を救いたい

社会に役立つ寄付を行った人を顕彰する、社団法人フィランソロピー協会のまちかどのフィランソロピスト賞(※)を受賞した三島治さん。三島さんは、アフリカのマラリア対策用として、蚊帳を寄贈する活動を続けています。

三島さんが蚊帳を贈るきっかけとなったのは、インターネットでした。「親から受け継いだふとん屋をどうしたら世の中の役に立てられるかと、平成八年に眠りや寝具の疑問に答えられるホームページを開設しました。そうしたら、枕やふとんだけではなく、店頭では見られなくなった蚊帳の注文を受けるようになりました。また、アフリカでは蚊帳がマラリア対策として最も有効な道具だと知り、いつかアフリカに蚊帳を贈りたいと思いました」と語ります。

蚊帳もインターネットを通して、お客さんの声を反映して商品開発しているそうです。「お客さんから『ベッド用の蚊帳がほしい』『洗うことができる蚊帳がほしい』という要望がありました。そこで、従来の平織りから縦糸を絡ませながら横糸を固定していくカラミ織りを蚊帳に使い、要望に応えられる商品を開発しました。また、糸に化学繊維ではなく麻を使用することで、『自然に包まれて眠る』ことを心掛けています」と、そのこだわりを語ります。

今回の受賞について、「うれしいよりも恥ずかしい」と照れながらも、「我が身が助かりたかったら人に尽くせ」と、先代から教えられた人の道の正しさが認められたことをうれしく思います。アフリカで命を救う蚊帳を多くの人に知ってもらいたいし、多くの人に健康で快適な眠りを提供していきたい」と語ってくれました。

※まちかどのフィランソロピスト賞

平成十年に創設され、今回が十一回目。今回は、三島さんのほかに児童養護施設に寄付を行っている競馬騎手の今野忠成さんが受賞。また特別賞として、盗塁数に応じて車いすを寄贈している阪神タイガースの赤星憲広さんが受賞。